

エコアクション21 (EA21)

# 環境活動レポート

2013年度  
(2013年2月～2014年1月)



作成 : 2014年 5月 1日



承認	作成
岩崎 (厚)	澤田

# I. 組織の概要及び略歴

## 会社概要

### 1. 事業所名及び代表者

株式会社 小名木川ギヤー  
代表取締役社長 岩崎 厚三

### 2. 所在地

#### 本社;

TEL 03-3631-0037(代)

FAX 03-3635-0868

E-mail ong@green.ocn.ne.jp

#### 千葉工場;

TEL 0475-34-4536(代)

FAX 0475-34-4568

E-mail ongchb@peach.ocn.ne.jp

#### 大網分工場;

TEL 0475-73-1816

FAX 0475-73-1816

### 3. EA21責任者・連絡先

管理責任者 常務取締役工場長 澤田 長師  
連絡先 環境事務局 生産管理部担当部長 並木 輝夫

TEL 0475-34-4536(代)

FAX 0475-34-4568

E-mail ongchb@peach.ocn.ne.jp

### 4. 事業の規模

従業員数	95名 (2014年 1月)
売上高	1,719(百万円) / 2014年 1月期
敷地面積	本社 366㎡ 千葉工場 6,982㎡ 大網分工場 1,468㎡
床面積	本社 195㎡ 千葉工場 3,674㎡ 大網分工場 1,282㎡

### 5. 会社沿革

当工場の沿革を次に記述します。

大正9年 東京本所区錦糸町に岩崎鉄工所として創業。諸機械及び歯車の製作を開始。

昭和6年 深川区千田町に移転。小名木川ギヤー製作所に社名変更。歯車専門メーカーとなる。

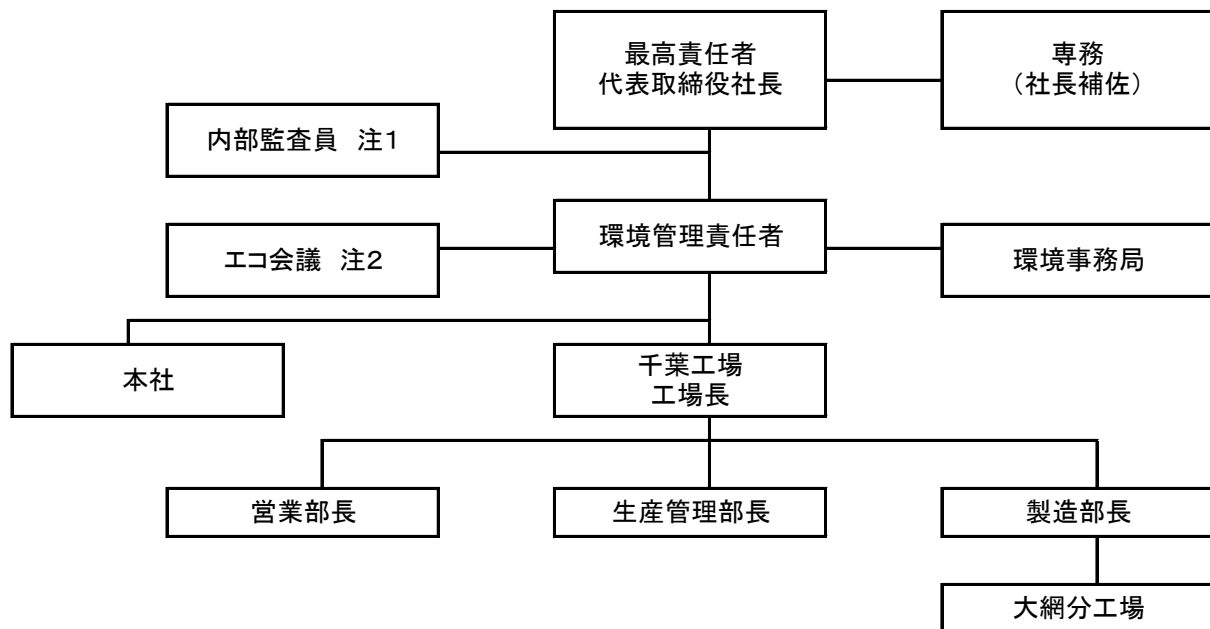
昭和19年 深川区猿江町に本社、工場を移設。

昭和24年 合資会社小名木川ギヤー製作所として法人化。資本金50万円。  
 昭和50年 株式会社小名木川ギヤーに改組。資本金2,000万円。  
 昭和56年 千葉県茂原市に千葉工場を建設。  
 昭和61年 製造業務をすべて集結。  
 平成15年 ホームページ公開(URL: <http://www.onagigawa.co.jp/>)  
 平成16年 千葉県山武郡大網白里町に大網分工場開設。  
 平成21年 環境マネジメントシステム、エコアクション21認証・登録。  
 平成21年 品質マネジメントシステム、ISO9001-2008登録。  
 平成23年 大網分工場第3工場新設。  
 平成25年 大網分工場住所名変更。  
 千葉県大網白里市大網1803番地

## 6. 現在の事業内容

歯車製造業として材料(主として鋼材)調達から、機械加工、熱処理(取引先に外注)、表面処理(取引先に外注)、梱包、輸送までの一貫した事業を行っています。

## 7. 環境組織図



注1 : 環境管理責任者及び管理者からチーム編成

注2 : 委員長:環境管理責任者、委員:社長・専務・顧問・部門長・環境事務局

## II. 対象範囲

事業活動と同じ『歯車製造』を認証登録します。

## Ⅲ. 環境方針

### 基本理念

### —— 我らの地球を守ろう！ ——

当社は、地球環境保全が全人類にとって最大重要課題であることを深く認識し、事業活動のすべての面で環境に配慮した行動に努め、同時に地域社会との調和を保ちながら事業を推進・発展させていくことを目指します。

### 基本方針

1. 歯車製造の事業活動を通じて環境経営システムを構築し、人と地球に優しい事業活動の推進と環境負荷の低減に努めます。
2. 環境に関する法規制を遵守し、環境汚染の防止と環境保全に努めます。
3. 当社が行なう環境活動は、以下を重点的に行っていきます。
  - 1) 工場、事務所内での省資源・省エネルギーの取り組み。
  - 2) 生産活動にともなう加工不良、廃棄物、排出物の削減。
  - 3) 調達品のグリーン購買。
4. 本方針に基づき環境目標を定め、環境活動計画に従って自主的かつ積極的な活動を展開するとともに、必要があれば環境方針の見直しを実施します。
5. 本方針を従業員および協力企業に周知するとともに、当社の活動を示した環境レポートを作成し、社外に公表します。

2010年 1月 31日  
株式会社 小名木川ギヤー  
代表取締役社長 岩崎 厚三

## IV. 環境目標

### 1. 環境負荷の実情(2012年度)

2012年度における環境負荷(電力及び化石エネルギー使用量、二酸化炭素排出量、廃棄物排出量及び総排水量)の実情は次の通りです。

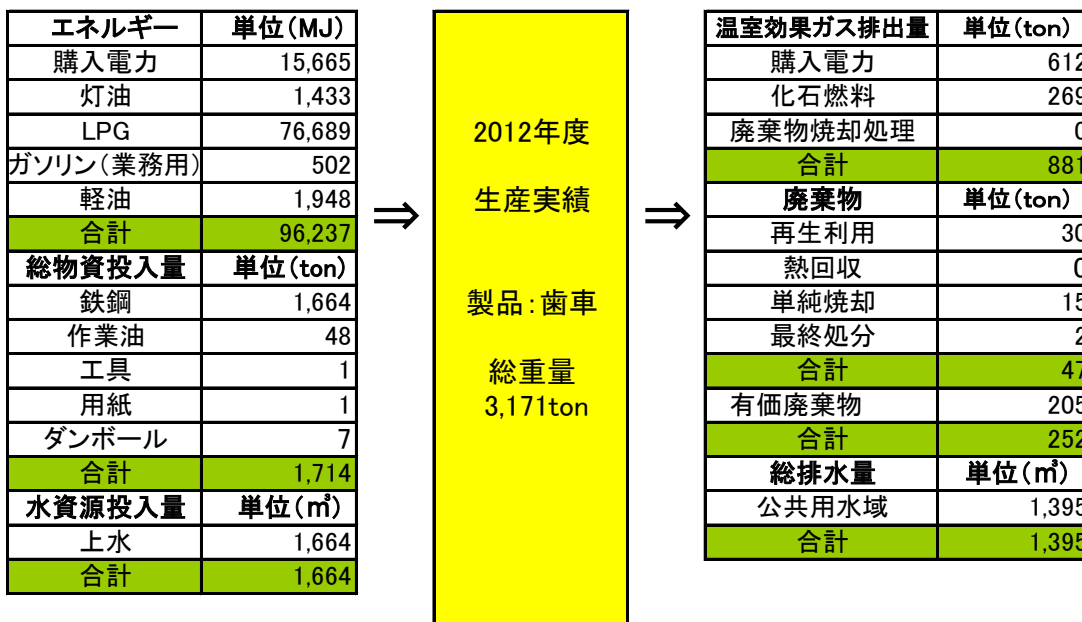
注：2012年度は2012年2月～2013年1月

項目	単位	目標値	実績	低減率	判定
電力使用量	kwh/生産量(ton)	509.1	502.5	△1.3%	未達成(目標値△3%)
灯油使用量	L/月	5,308.0	3,254.0	△38.7%	達成
ガソリン・軽油使用量	L/生産量(ton)	31.4	20.9	△33.4%	達成
LPG使用量	kg/月	126.5	138.9	+9.8%	未達成(目標値△3%)
二酸化炭素排出量	ton/生産量(ton)	0.32	0.30	△6.3%	達成
一般廃棄物排出量	kg/生産量(ton)	4.8	4.6	△4.2%	達成
産業廃棄物排出量	kg/生産量(ton)	15.1	10.1	△33.1%	達成
総排水量	m <sup>3</sup> /実働延人員	0.043	0.053	+23.3%	未達成(目標値△5%)
調達品のグリーン購買	件数	100%	OK		達成

二酸化炭素排出係数：0.384使用

上表の実績からまとめた2012年度の環境マテリアルバランスは次の通りです。環境マテリアルバランスとは、事業活動による環境負荷の低減を評価するために、資源やエネルギーなどの投入と二酸化炭素や廃棄物などの排出量を算出し図式化した一覧表です。

2012年度の環境マテリアルバランスは次図の通りとなりました。



- ・この表から、CO<sub>2</sub>生産比率(CO<sub>2</sub>排出量1トン当たりの生産重量高比)を算出した結果は、製品重量3,171(ton)/CO<sub>2</sub>排出量881(ton) = 3.599となりました。
- ・2012年度は、仕事量が減少した影響で、生産比率の数値が前年度より低くなりました。

・環境負荷の実績に関しましては、エコ活動が定着してきたこともあり目標値をクリアする項目が増えてきました。なお、3点の項目が未達成となりました。  
 電力・LPGに関しましては気温の変化が例年より大きかったため暖房用燃料として使用したことが主要因と思われます。  
 また、総排水量に関しましては、2011年度には、水道の元栓を30%制限して効果を挙げていたが、社内の一部の設備の水力不足により故障が発生いたしましたので、2012年度から制限を解除したことと、気温の上昇による使用量が増えたことが原因と思われます。

## 2. 環境目標

2012年度以降の環境目標は、いずれの項目とも前年度の実績を基準として活動を行なうこととして、その低減率を下表のように設定しています。

項目	単位	2012年度～2015年度目標(低減率)
電力使用量	kwh/生産量	前年度実績を基準として△3%
灯油使用量	L/月	前年度実績を基準として△3%
ガソリン・軽油使用量	L/生産量	前年度実績を基準として△3%
LPG使用量	kg/月	前年度実績を基準として△3%
二酸化炭素排出量	ton/生産量	前年度実績を基準として△3%
一般廃棄物排出量	ton/生産量	前年度実績を基準として△5%
産業廃棄物排出量	ton/生産量	前年度実績を基準として△3%
総排水量	m <sup>3</sup> /実働延人員比	前年度実績を基準として△5%
調達品のグリーン購買	購入件数	調達品全件数

## V. 主要な環境活動計画の内容

No	項目	目標値	改善活動の内容
1	電力使用量	前年度実績 3%低減	①昼休み・不在場所の消灯(月4回程度巡回点検) ②エアコン適温化(夏季:28℃、冬季:20℃) ③電気ストーブ周りの適温化(足元温度:25℃以下) ④エア配管系のエア漏れ点検修理
2	灯油使用量	前年度実績 3%低減	①昼休み・不在場所の消火(月4回程度巡回点検) ②灯油ストーブ周りの適温化(室温:20℃以下) ③洗浄油再利用の活性化
3	ガソリン・軽油 使用量	前年度実績 3%低減	①輸送ルートの事前検討励行(運行管理者による日常指導) ②フォークリフト省エネ運転励行(管理者注視による指導) ③社有車の計画的運行 ④省エネ社有車の導入
4	LPG使用量	前年度実績 3%低減	①ガスストーブ周りの適温化(室温:20℃以下)
5	一般廃棄物排出量	前年度実績 5%低減	①梱包緩衝材をリユース材へ変更 ②コピーの縮減、裏紙利用促進 ③分別励行による可燃物縮減
6	産業廃棄物排出量	前年度実績 3%低減	①廃油リサイクル ②産業廃棄物の適正処理 ③工事排出物の業者指導 ④破損パレット返却励行
7	総排水量	前年度実績 5%低減	①蛇口付近に節水励行札の取り付け ②朝礼等にて啓蒙活動
8	調達品のグリーン 購買	事務用品に適用 購入品100%	①注文時にグリーン用品を指定 ②納入品のグリーンマーク確認

## VI. 2013年度における環境目標とその実績

2013年度における環境負荷(電力及び化石エネルギー使用量、二酸化炭素排出量、廃棄物排出量及び総排水量)、調達品のグリーン購買の実情は次の通りです。

注: 2013年度は2013年2月～2014年1月

項目	単位	目標値	実績	低減率	判定
電力使用量	kwh/生産量(ton)	487.43	467.04	△4.18%	達成
灯油使用量	L/月	3,156.38	2,583.00	△18.16%	達成
ガソリン・軽油使用量	L/生産量(ton)	20.273	20.052	△1.09%	達成
LPG使用量	kg/月	134.733	113.890	△15.46%	達成
二酸化炭素排出量	ton/生産量(ton)	0.291	0.255	△12.37%	達成
一般廃棄物排出量	kg/生産量(ton)	4.370	3.571	△18.28%	達成
産業廃棄物排出量	kg/生産量(ton)	9.797	7.916	△19.19%	達成
総排水量	m <sup>3</sup> /実働延人員	0.050	0.051	+1.02%	未達成
調達品のグリーン購買	件数	100%	OK		達成

二酸化炭素排出係数:0.384使用

上表の実績からまとめた2013年度の環境マテリアルバランスは次の通りです。環境マテリアルバランスとは、事業活動による環境負荷の低減を評価するために、資源やエネルギーなどの投入量と二酸化炭素や廃棄物などの排出量を算出し、図式化した一覧表です。

2013年度の環境マテリアルバランスは次の通りとなりました。

INPUT		⇒	2013年度 生産実績  製品:歯車  総重量 3,227.4ton	⇒	OUTPUT	
エネルギー	単位(MJ)				温室効果ガス排出量	単位(ton)
購入電力	14,817.077				購入電力	578.816
灯油	1,137.489				化石燃料	231.997
LPG	68.611				廃棄物焼却処理	0.000
ガソリン(業務用)	528.498				合計	810.813
軽油	1,857.484				廃棄物	単位(ton)
合計	16,551.675				再生利用	1.54
総物資投入量	単位(ton)				熱回収	0.00
鉄鋼	3,424.900				単純焼却	11.53
作業油	46.040				最終処分	1.14
工具	0.655				合計	14.21
用紙	0.598				有価廃棄物	197.50
ダンボール	7.224				合計	211.71
合計	3,479.417				総排水量	単位(m <sup>3</sup> )
水資源投入量	単位(m <sup>3</sup> )				公共用水域	1216.0
上水	1,416.8				合計	1216.0
合計	1,416.8					

CO<sub>2</sub>生産比率(CO<sub>2</sub>排出量1トン当たりの生産重量高比)を算出し、この指数を毎年改善していきます。

2013年度の実績

製品重量 3227.4(ton)/CO<sub>2</sub>排出量 810.8(ton)=4.0

IV. 1. で表記した2012年度の指数が3.599であり、2013年度の指数は3.980となり、前年度より上昇しました。

昨年12月から5月まで一時帰休をしておりましたが、その後、受注量の回復があり比率の上昇につながったと思われます。



## Ⅶ. 環境保全活動の取組み結果の評価と次年度取組みについて

### 1. 2013年度の目標に対する評価

二酸化炭素排出量:	目標値を達成することが出来ました。
電力使用量:	目標値を達成することが出来ました。昨年よりも生産量の増加、加工機械と照明時間も増加し、また、夏場が高温で推移し、エアコン及びスポットクーラーの使用量も増加しました。しかし、社員の節電活動の成果により達成することが出来ました。
灯油使用量:	目標値を達成することが出来ました。2011年8月から継続している給油記録表の量の記帳の効果が浸透したことで、使用量の削減になりました。
ガソリン・軽油使用量:	無駄な走行をせずに、エコ運転が実践されていることで、目標値を達成することが出来ました。
LPG使用量:	1月から4月の寒波によりガストーブの使用頻度も多くなったが目標値を達成することが出来ました。
一般廃棄物排出量:	目標値を達成することが出来ました。無駄な書類・コピー等の削減効果が表われた結果と思われます。
産業廃棄物排出量:	目標値を達成することが出来ました。2013年12月から廃油引取り業者を変更することで、今までの業者で全て廃油処理されていたものを変更の業者では、再生油と廃油を分別できることにより、廃油処理の量の削減が出来るようになったことが原因と思います。
総排水量:	目標値をわずかにオーバーし達成することが出来ませんでした。今年の夏の猛暑の影響で給水及び植木・通路等に撒く水量の増加が原因していると思われます。

### 2. 内部監査・外部監査の結果

#### (1)内部監査

2013年12月5日(工場)と6日(本社)に実施しました。

監査の結果、不適合判定はありませんでした。観察は2件発生しましたが、調査終了をしましたことをマネジメントレビューにて報告し、了承されました。

#### (2)外部監査

但し、EA21の更新審査にて実施しました。

### 3. 次年度取組み内容

全体的には、現状の取組み内容を継続する予定であります。2013年度未達成の項目の改善と次項の施策に取り組めます。

- (1)ピーク電力管理のため、デマンドコントロールの数値の設定の見直しを行ない、電気使用量の削減を図る。
- (2)工場内の照明のLED化を進め、電気量の削減を推進する。
- (3)工場内の水道の蛇口に節水コマを取付け、使用量の削減を図る。  
新たに設置する蛇口につきましては、バルブ付きにして、節水対策を促進する。

## VIII. 環境関連法規の遵守状況及び違反、訴訟等の有無

### 1. 法規制遵守状況の適合性評価

適用を受ける法規制とその遵守状況(調査結果)を次に表記します。

No	適用法	規制値 基準値	届出が 必要な 施設等	対象作業	記録類			備考	調査結果
					記録名	頻度	保管 期間		
1	工場 立地法	下記	生産施設 緑地面積 等	規制基準 遵守及び 施設の届出	なし	なし	なし	無指定地域	届出・規 制対象外 (下記参照)
2	消防法	下記	生産施設	施設の届出	なし	なし	なし	法規制施行 以前の建築 の為対象外	
3	廃棄物 処理法	なし	なし	産業廃棄物 1.保管基準 遵守 2.業者委託 契約 3.マニフェスト 伝票管理 4.産廃実績報 告	産業 廃棄物 管理表	発生都度	5年		遵守OK (対象 作業欄 ともOK)
4	自動車 Nox PM法	なし	なし		なし	なし	なし	普通貨物車 ディーゼル 貨物車	遵守OK (適合者 使用)
5	自動車 リサイ クル法	なし	なし	廃棄時 適性処分	適正処分 証明書	発生都度	3年	社有車	遵守OK
6	家電 リサイ クル法	なし	なし	廃棄時 適性処分	適正処分 証明書	発生都度	3年	家電製品 4品目	遵守OK
7	パソコン リサイ クル法	なし	なし	廃棄時 適性処分	適正処分 証明書	発生都度	3年	パソコン	遵守OK
8	フロン 回収 破壊法	なし	なし	廃棄時 適性処分	回収 依頼書	発生都度	3年	エアコン コンプレッサー	発生なし

〔工場立地法について〕

- (1)届出対象 敷地面積9,000㎡以上、又は、建築面積3,000㎡以下。  
(2)規制値 敷地面積に対する生産施設の割合 40%以下  
千葉工場 第1～3工場 合計2,290㎡により割合37%  
大網分工場 第1～3工場 合計 940㎡により割合26%  
(3)規制値 敷地面積に対する緑地面積の割合 10～20%以下  
千葉工場 立木・芝生・植込み等  
(4)規制値 敷地面積に対する環境施設面積の割合 15～25%以下  
千葉工場 上記プラス運動施設等

※当工場は「無指定地域」につき、上記の届出・規制値は対象外。  
(建築面積が届出対象の面積であるが、同理由により届出対象外。)

〔消防法について〕

- (1) 工場壁 耐火材料。現状は、スレートで耐火材料として認められていません。
- (2) 工場周辺建築物 工場外壁と周囲建築物との間隔は3m以上。現状は一部3m以下のものもあります。
- (3) 工場内機械設置 工場内壁と機械の間隔は3m以上。現状は一部3m以下の場所もあります。

※以上の規制値は平成元年2月23日施行です。当工場の建築及び機械配置は、この施行日以前に建築配置しているため適用外となります。  
今後、増改築及び機械配置する場合には適用します。

## 2. 利害関係者による評価

今期中(2013年2月～2014年1月)の利害関係者による指摘・評価等はありませんでした。

## 3. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法規に対しての調査した結果、違反はありませんでした。また、関係当局及び利害関係者からの訴訟・指導・苦情等は、過去5年間ありません。

# Ⅸ. 代表者による全体評価と見直しの結果

内部監査実施後、2014年3月6日にマネージメントレビューを開催し、環境方針、環境目標、環境改善活動計画とその実績及び環境組織が適正に運用されていることが確認され、次年度に向けての環境方針・環境目標は維持することを決定しました。